

はじめに

本報告書は、東北大学グローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」の東京大学社会科学研究所連携拠点が刊行する研究シリーズの第3号である。

性別や年齢、出身地、障がいの種類・有無や国籍などにかかわらず、だれもが人格と個性を尊重され、フルに参加できる社会、そのような社会を実現する条件は何か。GCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」（拠点リーダー：辻村みよ子・東北大学大学院法学研究科教授）は、そうしたグローバルな課題に挑戦する高度な専門家を養成していく。また、研究の成果を広く社会に還元し、貧困や格差による社会的排除、人口高齢化、根強いジェンダー不平等といった社会問題に対して、有効な公共政策の策定に寄与する。

本GCOEプログラムは名称に男女共同参画と多文化共生を重ねている。多文化というとエスニック・グループを単位とする問題と捉えられやすく、また男女共同参画は性別だけの問題と思われがちである。しかし、多文化共生がより幅広いテーマであるにしても、その中に男女の格差やチャンスのギャップ、そして差別といった問題があることを常に認識するというコンセプトといえよう。

こうしたGCOEプログラムのコンセプトに相応しく、社会科学研究所連携拠点研究シリーズNo.3では、2010年3月6日に、本連携拠点が、ソウル大学校日本研究所と共催した国際共同シンポジウム「日韓社会における貧困・不平等・社会政策：ジェンダーの視点からの比較」を収録する。社会科学的な日韓比較はさまざまな側面で急速に発展しているが、このようなテーマで日韓の研究者が一堂に会して知見を交換する機会には、これが初めてといえよう。しかも報告のなかには、日本、韓国それぞれの研究ばかりでなく、日韓比較や日独比較、一国研究を多国間比較の視角に据えるものが含まれている。比較社会政策論にたいして、北東アジアからの有意義な発信となりうるシンポだったと考える。とくに韓国の報告者や討論者は気鋭であり、今後の活躍が大いに期待される。

さて韓国では近年、研究者のワークライフバランスが重視されるためか、学会大会なども週末ではなく週日に開催されるそうである。本シンポの報告者であり、コーディネートにもあたった金英教授は、日本側の都合で開催が土曜日となったことから、参加者の数を心配されたが、朝からの長時間のシンポに100人を越える参加があり、会場からの討論も活発だった。韓栄恵所長以下、ソウル大学校日本研究所のみなさまのご尽力の賜物と感謝申し上げる。

連携拠点リーダー
大沢真理

国際共同シンポジウム

日韓社会における貧困・不平等・社会政策：
ジェンダーの視点からの比較

2010年3月6日（土）9：30 - 18：00

ソウル大学校国際大学院 ソーチョン ホール

共催

東北大学GCOE「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」東大社研連携拠点
ソウル大学校日本研究所

目次

登壇者の紹介(登壇順)	9
オープニングスピーチ	14
基調講演	李惠炅 17
<第1パネル>	
生活保障システムの比較ジェンダー分析と世界経済危機	大沢真理 25
少子化社会の所得不平等：家族主義福祉国家の揺らぎ	白波瀬佐和子 31
韓国における女性世帯主の貧困： 普遍的傾向または韓国の特殊性	金秀涎 37
コメント	朴京淑/黄晶美 44
<第2パネル>	
家族政策における自由選択の争点	宋多永 57
育児支援システムに関する日韓比較	相馬直子 65
コメント	白仙姫 71
<第3パネル>	
調整された市場経済におけるジェンダーと雇用保護の終焉： ドイツ・日本の比較研究	カレン・シャイア 83
‘主婦制度’と‘市場専制’： GMS企業の労務管理を通じてみた日韓非正規労働市場	金 英 91
コメント	張芝延 100
<総合討論>	109
第1パネル 図表	237
第2パネル 図表	246
第3パネル 図表	249

2010年11月30日発行（非売品）

GCOE「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」社会科学研究所連携拠点
研究シリーズ No.3 （ISS Research Series No.3）

国際共同シンポジウム

日韓社会における貧困・不平等・社会政策：ジェンダーの視点からの比較

한일 사회의 빈곤, 불평등 그리고 사회정책 : 젠더 관점에서의 비교

発行所 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

TEL 03-5841-4908 FAX 03-5841-4905

東京大学社会科学研究所

制 作 東京大学社会科学研究所

GCOE連携拠点

印刷所 ハンギル文化社